

愛媛県今治市山之内川で採集されたチュウゴクスジエビ

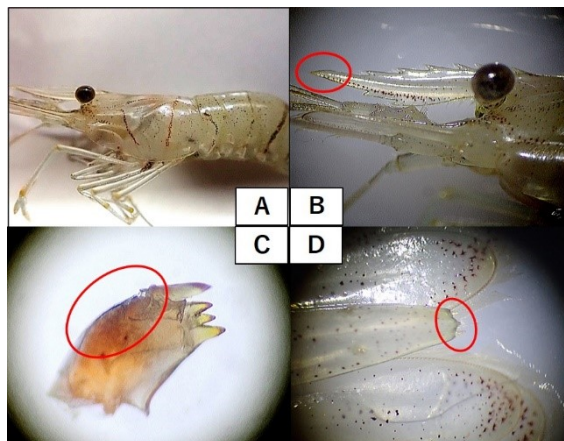
高橋弘明¹・清水孝昭²・山本貴仁³・岩田和鷹³¹株式会社 相愛²愛媛県農林水産研究所水産研究センター³西条自然学校写真1 *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911) チュウゴクスジエビ

写真2 各部の形態

種の記録

Palaemonidae テナガエビ科

Palaemon sinensis (Sollaud, 1911)

チュウゴクスジエビ (写真1)

標本 採集年月日:2023年7月29日. 採集場所:愛媛県今治市大西町山之内川(34.0492N,132.9197E). 採集方法:タモ網. 採集数:1個体. 標本保管:株式会社相愛内(液浸)

種の特徴

体型は他のスジエビ属に似るが、縞模様は全体に薄く、線は細い。頭胸甲の縞は2本で後方の線の上端は背側に達するが先端は不明瞭(写真2A)。額角は前方にほぼ水平に伸び、触角鱗の先端付近に達する。上縁先端付近に歯はない(写真2B)。大顎に触鬚はない(写真2C)。尾節末端中央に棘をもつ(写真2D)。

備考

分類は豊田・関(2014)、大貫ほか(2010)、今井・大貫(2017)を参考にした。本種はアジア大陸東部原産で日本国内には在来分布しない国外外来種であるが、近年「シラサエビ」の商品名で活きた釣り餌として大量に輸入され、日本各地の野外水域で確認されている(例えば斎藤ほか, 2011)。愛媛県からは2016年に宇和島市の岩松川水系から(今井・大貫, 2017)、2019年に今治市大島と伊方町の溜池から確認されている(今井ほか, 2021)。今回本種が確認された山之内川では中流域の水際植生の中から1尾が採集されたに

留まり、その資源量については今後詳細な調査が必要である。

引用文献

- 今井 正・小笠原長護・斎藤英俊. 2021. 愛媛県からのチュウゴクスジエビの追加記録とエビノコバンの外部寄生事例. 南紀生物, 63(1):67-72.
- 今井 正・大貫貴清. 2017. 愛媛県宇和島市岩松川水系で採集された淡水エビの移入種チュウゴクスジエビ(改称) *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911). 南紀生物, 59(1):82-86.
- 大貫貴清・鈴木伸洋・秋山信彦. 2010. 静岡県浜松市の溜池で新たに発見された移入種 *Palaemonetes sinensis* の雌の生殖周期. 水産増殖, 58(4):509-516.
- 斎藤英俊・丹羽信彰・河合幸一郎・今林博道. 2011. 西日本における釣り餌として流通される水生動物の現状. 広島大学総合博物館研究報告, 3:45-57.
- 豊田幸詞・関慎太郎. 2014. 日本の淡水性エビ・カニ. 日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種. 誠文堂新光社, 東京. 255pp.

(2023年8月4日受付, 2023年8月7日公開)

連絡先: 高橋弘明 (e-mail: h.takahashi@soai-net.co.jp)
(Hiroaki Takahashi, Takaaki Shimizu, Takahito Yamamoto and Kazutaka Iwata. 2023. Record of *Palaemon sinensis* from Yamanouchi River in Imabari City, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 23012)